

ベルリン五輪

観客目線の映像 兵庫でデジタル化

毎日新聞 2018年7月21日 12時00分 (最終更新 7月21日 14時24分)

社会 めっちゃ関西 速報 話題



祖父がフィルム撮影した

1936年のベルリン五輪の映像
を兵庫県芦屋市の川口辰郎さん

(66)がデジタル化した。ベル
リン五輪は聖火リレーと共にテレ
ビ中継が初めて導入され映像が残
るが、それとは異なり、日本選手
らの活躍がスタンドの観客目線か
ら記録されている。専門家は「権
力者や報道の視点ではなく、当時
の庶民の关心やスポーツ観を知る



上で貴重な映像だ」と話している。【石川勝義】

＜東京五輪＞入場券は最高30万円 陸上
13万円も

＜ナチスの時代から考える＞「ゲッベルスと
私」政治的無関心は権利なのか

＜写真特集で見る＞「ゲッベルスと私」

祖父が撮影したベルリン五輪の
映像について語る川口辰郎さん
＝大阪市福島区で2018年7
月19日、梅田麻衣子撮影

川口さんによると、同県尼崎市
で肥料問屋を営んでいた祖父・小
左次さん（故人）が日記や写真でベルリン五輪撮影に至つ
た経緯を記録していた。それによると、肥料用カリウムを
輸出していた欧米やロシアの肥料製造会社側が日本での取
り扱いを増やすと、小佐次さんら日本の業者4人を海外
視察に合わせてベルリン五輪に招待した。

1936年6月22日にドイツ船シャルンホルスト号で
神戸港を出航。中国、インドネシア、スリランカなどを経
てスエズ運河からフランス・マルセイユに上陸、フラン
ス、ドイツ、オランダ、イギリスなどを視察した。小左次
さんはドイツで8ミリフィルムの撮影機を購入し、観客席
からベルリン五輪を撮影。その後、旅客船ノルマンディー
号でアメリカに渡り、米サンフランシスコから日本郵船の
浅間丸で同年10月15日に横浜へ帰港した。

デジタル化されたフィルムは、川口さんの父盛之助さん
が20年ほど後にオリジナルのフィルムを「欧洲点描」と
いう題名で約14分半に編集したもの。2年前に盛之助さ
んが亡くなり、川口さんが遺品整理の過程でNHKアーカ
イブスに依頼し、プライベートフィルムとしてデジタル化
された。

映像はモノクロで無音。満員の観客でスタジアムが埋
まった開会式のほか、陸上男子5000、1万メートルと
もに4位入賞した元毎日新聞記者の村社（むらこそ）講平
選手▽統治下にあった朝鮮半島出身でマラソンで金メダル
を獲得した孫基禎（ソン・キジョン）選手▽この大会で日

本人女性初の五輪金メダルを獲得した競泳の兵藤（旧姓・前畠）秀子選手——らのレースの模様を収録している。

映像だけでは前畠選手らの判別は難しいが、盛之助さんが「陸上5000米 村社選手 8・7」「優勝したマラソン 8・9」「女子二百米平泳に於ける前畠選手」などとタイトルを付け、当時の新聞も一緒に編集しており、そのままデジタル化されている。

ナチス政権下で開催されたベルリン五輪は「ヒトラーのオリンピック」とも呼ばれる。小左次さんは開会式があった8月1日の日記に「スタジアムにてオリンピック開会式を見る」「ヒットラー総統の何ら警戒なき態度には感ぜり」と書き残した。

一方で、「会場は『ハイル・ヒットラー』の大歓声だったが、案内役のドイツ人はナチス式の敬礼をせずに『あんな成り上がり者は国を誤らす』とつぶやいた」と盛之助さんに語った。盛之助さんは「目を開かされた気持ちだった」と振り返り、小左次さんの日記をワープロで起こした際にこのエピソードを記載している。

ベルリン五輪後の40年には東京五輪が予定されていたが、37年の盧溝橋事件とその後の日中戦争で幻となつた。小左次さんら一同が乗ったドイツの客船「シャルンホルスト号」も、後に日本海軍の空母「神鷹（しんよう）」に改造された。

第二次世界大戦へと進む時代のベルリン五輪。初めて映像を見た川口さんは「祖父の旅行は本当に幸運な体験だと思う。1年遅ければ実現しない旅行だった」と語った。

荻浩三・日本体育大教授（スポーツ史）の話 ベルリン五輪に関してはレニ・リーフェンシュタール監督の記録映画「民族の祭典」「美の祭典」があり、テレビ中継の映像も残っているが、一般市民が撮影したプライベート映像の存在は初めて知った。権力者や報道の視点ではなく、当時の庶民の关心やスポーツ観を知る上で貴重な史料だ。

1940年の幻の東京五輪に向けて高まっていた日本の機運を知る手掛かりにもなる。

1928年
アムステルダム
1936年
ベルリン
1964年
東京
1972年
ミュンヘン
1976年
モントリオール
1992年
バルセロナ
1996年
アトランタ
2000年
シドニー

1896年アテネ男子のみ 1900年パリ 女人禁制、撤廃 2012年ロンドン

1936年 貴重な民間映像を発掘

□女子
金1号

川口さんの祖父が旅行中に撮影

1936年ベルリン大会の様子を映した貴重な民間映像が、このほど“発掘”された。兵庫県芦屋市の川口辰郎さん(68)の祖父・平三郎さんが、旅行中に8ミリビデオで撮影したもの。NHKの協力を得て、川口さ

んが昨年2月に長年保管していたフィルムをDVDにした。80年以上前に祖父が撮った映像を初めて目にした。「こうしたイベントに参加し、改めて大したこととした人間だったんだと思います」

日本女子金メダル1

1936年ベルリン五輪の映像と当時の資料を手にする川口辰郎さん



会式、陸上なども撮影。海外旅行もビデオも珍しい時代に、客席から撮った映像はかなりレアなものだ。

このDVDを預かる尼崎市立地域研究史料館の河野未央さん(42)は「この地域は、戦争の空襲で資料をなくされた方がたくさんいる。映る状態で残って号、前畠秀子のレース映像も収められている。開いたのは貴重」と価値を認めめた。

藤本義一さん

家族が逸話披露

7月、芦屋で講座

芦屋市にゆかりの深い作家藤本義一氏(2012年死去)の思い出を家族が披露する公民館講座が7月27日、市立公民館(業平町)で開かれる。

自らが発起人となつて寄

付を集め、1999年、阪

神大震災で被災した児童らの心のケアの場として「浜風の家」(昨年12月閉館)

講座は「作家藤本義一の思い出」と題し、午後2時

から妻統紀子さん、長女中

田有子さん、次女藤本芽子

さんは生前の逸話を語る。

氏名、電話番号を書き同館へはがき(〒659・00

68芦屋市業平町8の24)

かFAX(0797・31・4998)で申し込む。

ら芦屋市民を優先の上、抽

選)で受講料400円。締

め切りは6月15日。住所、

氏名、電話番号を書き同館

へはがき(〒659・00

68芦屋市業平町8の24)

かFAX(0797・31・4998)で申し込む。

— 4 —

2018年6月14日

神戸新聞朝刊

出版社「文藝春秋」の元社長で、神戸市外国語大学客員教授の平尾隆弘さんを招く講演会「芥川賞と直木賞のすべて 藤本義一・村上龍から 朝井まで・姫野カオルコまで」が7月14日、芦屋市業平町の芦屋市民センターナ・ホールで開かれる。

芦屋市と芦屋市教育委員会の主催。大阪府出身で

「文藝春秋」元社長 平尾さん 来月
芥川・直木賞、作家を語る 芦屋

神戸市外国語大卒業の平尾さんは「週刊文春」や「文藝春秋」などの編集長をし、2009年から社長を務めた。当日は、芥川賞と直木賞の選考から授賞式までの経験を語り、参加者との質疑応答の時間もある。

午後2時から。前売り券千円（当日200円増）。
同センター☎0797・35・0700

2018年(平成30年)4月30日(月)

広告 24



河内文化回廊

6月2日(土)、大女優の山本富士子さんを、芦屋ルナホールに招く。出本さんの祖父は、高砂市の旧家の三男に生まれ、大陸船場で錦花の大仲買を営み、財を成した。南海沿線の生地で育った山本さんは、小学校から帰ると、すぐ飛び出して浜辺に行き、泳ぐ。少女であつた。

初代ミス日本に選ばれたことがきっかけで女優となつたときは、日本映画が全盛期に入る頃で、計103本に出演。邦画が斜陽に向かう昭和39年、活躍の場を舞台に転じ、大阪新歌舞伎座で初舞台を踏み出す。

この日は、山本さんの父は西宣巳、のちの松本白鸞とも豪華共演であった。松本幸四郎(八代目)と山本富士子の父は西宣巳(正14年卒)。母は神戸市立甲陽中学(現甲陽学園)の創立百周年を昨年迎えた第4期生大谷川一夫と山本富士子から兵庫と縁は深い。

私の甲陽時代、美男美女の代名詞といえども、長谷川一夫と山本富士子だったが、長谷川の長男、林成年(俳優)も甲陽OBである。谷川文化サロン(昭和24年卒)。第一部は山本さんとの対談で、聞き手は私がつとめる。第2部は「心に人どいうテーマで山本さんが語る。チケットは前売り2,500円、当日2,500円(金席指定)も取り扱っている。

兵庫と縁が深い 山本富士子さん

芦屋市で開かれる講演と対談のイベントに登場する山本富士子さん
=1965年撮影